

個別訓練 **タイムトライアル**



★訓練のすすめ方

簡略版では実際に避難しながら、自宅から避難場所までの経路と所要時間を確認する作業が中心になります。ハザードマップなどを参照しながら、どこへどのように逃げるのかを事前に考えておく必要があります。

ビデオ撮影を加える場合、訓練の一部始終を子供たちがビデオカメラで撮影します。2台のカメラを用いて、1台は訓練参加者の表情を、もう1台は周囲の状況を撮影します。さらに別の子供が、その時々状況をメモに記録します。

たとえば、「そろそろ疲れてきた」「避難のためには、周囲の協力やリヤカーの利用が必要かも」といった具合です。

★動画カルテ

ビデオ撮影を加えた場合、すべての結果を「動画カルテ」と呼ぶ映像にまとめます。画面は4分割されています。

左上の画面には1台目のカメラ映像、右下には2台目のカメラ映像、右上には訓練参加者の感想(赤字)と子供たちからのメッセージ(青字)、そして左下の地図には、避難経路と現在位置が赤色の線と丸印で表示されています。

画面中央には、地震発生時点からの時間経過の表示があり、4つの画面はスタートからゴールまでずっと連動しています。(右写真を参照ください)

さらに本格的にする場合は、左下の地図に津波浸水シミュレーションの映像を、訓練者の動きと重ねて表示することも可能です。これによって、たとえば「ここまで逃げたときに、自宅はすでに津波が押し寄せてきている。間一髪だった」ということが一目瞭然でわかります。



さらに本格的にする場合は、左下の地図に津波浸水シミュレーションの映像を、訓練者の動きと重ねて表示することも可能です。これによって、たとえば「ここまで逃げたときに、自宅はすでに津波が押し寄せてきている。間一髪だった」ということが一目瞭然でわかります。

★期待される効果

自分自身が「主役」をつとめる避難訓練を通して、津波避難を「わがこと」として意識して、決してあきらめることなく、逆に油断することもなく、自分(家族)の津波避難の課題を見つけ、その解決方法を個別具体的に考えることができます。

学校での防災学習と組み合わせて実施すれば、子供を含む地域住民の防災意識を高め、津波に関する知識を増すだけでなく、地域、学校、行政の間の協力関係をさらに強める効果も期待できます。

また子供たちから、訓練に関するメッセージを訓練参加者(たとえば高齢者)にお届けしますので、世代を越えて「一緒に逃げよう」、「ともに津波の危険と向き合おう」という気持ちを高めることにもつながります。

禁無断転載 © 京都大学防災研究所 矢守研究室



お問い合わせ先
E-mail : yamori@dri.dpri.kyoto-u.ac.jp
FAX : 0774-31-8294

動画カルテ

地震発生



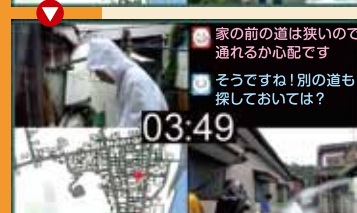
まず、身を守る



避難路を進む



高台への上り坂



避難広場が見えてきた



無事到着

